



道

2021年12月1日
(第76号)

あの山のむこうに なにがあるんだろう？ 昨年十二月に亡くなった安野光雅さんは、子どもの頃、故郷(島根県津和野)の山を眺めながら、未だ見ぬ山の向こうに思いをめぐらせていた。好奇心や想像力たくましい子どもは、画家・絵本作家となって私たちを夢想の世界に誘う。▼『にほんご』(福音館書店1979年)は安野さんや谷川俊太郎さん達が、小学校一年生向けの教科書として作った本だ(国は教科書として認めなかったが)。そこに、安野さんが見ていた山の絵がある。本の著者は「想像力」を育むことを強く考えていた。▼ブレイディみかこさんの近著『他者の靴を履く——アナーキック・エンパシーのすすめ』(文藝春秋)でも「想像力」がキーワードとなる。「エンパシー」は「他者の考えや感情を想像する力」である。「共感」などと訳されるが、例えば可哀そうな人に接してわき起こる思いやりや同情などの自然な感情(「シンパシー」とは少し違う。他者に意識を向けてその思いや気持ちなどを想像すること。いわば、努力して身につける「スキル」や「能力」みたいなものだ。▼コロナ禍で社会の分断や不平等が増幅していると言われる。そこには、違う者への憎悪、暴言、嘲笑、軋轢などが渦まき。だから、今こそ「エンパシー」的な想像力が求められる。『にほんご』に思いを馳せねばならない。▼そういえば先日、酒の席で自説に固執して相手の考えを受け入れようとしない僕がいたなあ。反省。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也



遠田 椋の木